

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●サマーシリーズ2020の各チャンピオンが決定

今年のサマーシリーズは9月13日(日)までに対象の全レースが終了し、各シリーズのチャンピオンが決定しました。サマースプリントシリーズは、第2戦・CBC賞(GⅢ)3着、第4戦・テレビ西日本賞北九州記念(GⅢ)1着で計14ポイントを獲得したレッドアンシエル(牡6歳/栗東・庄野靖志厩舎)が、CBC賞1着などで13ポイントだったラブカンブーらを抑えて優勝。サマー2000シリーズでは、第1戦・七夕賞(GⅢ)2着のブラヴァス(牡4歳/栗東・友道康夫厩舎)が、第5戦・新潟記念(GⅢ)で重賞初制覇を果たすとともにポイントを15へと伸ばし、シリーズチャンピオンの称号を手にかけています。サマーマイルシリーズでは、優勝の可能性を残す馬が最終第4戦・京成杯オータムハンデキャップ(GⅢ)に多数出走。このレース連覇を果たしたトロワゼトワル(牝5歳/栗東・安田隆行厩舎)が、第3戦・関屋記念(GⅢ)2着などと合わせて獲得ポイントを16とし、チャンピオンとなりました。またサマージョッキーズシリーズはテレビ西日本賞北九州記念と新潟記念を勝利するなど通算34ポイントを獲得した福永祐一騎手(栗東・フリー)が、2011年、2018年に続いて自身3度目となるシリーズチャンピオンに輝いています。

●ロンジンワールドベストレースホースランキング発表

IFHA(国際競馬統括機関連盟)から恒例の「ロンジンワールドベストレースホースランキング」が発表されました(単位はポンド)。今回の発表分は2020年1月1日から9月6日までに実施された世界の主要レースが対象で、トップは前回に引き続きガイヤースとなりましたが、インターナショナルSを完勝してレーティングは前回の127から130へと上がっています。第2位には、セントジェームズパレスSとジャックルマロワ賞を連勝したバレスビア(126)が、前回の第14位タイからランクアップ。第3位タイにはストラディバリウス、ティズザロー、ペルシアンキングが並んでいます(125)。日本調教馬はエネイブルらと並ぶ第6位タイ(124)となったアーモンドアイを筆頭に、第15位タイ(122)にコントレイル、第26位タイ(120)にクロノジェネシスとサートウルナーリアが入りました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●菊花賞トライアルの神戸新聞杯(中京)に北海道のシンボが登録

神戸新聞杯(GⅡ、9月27日、中京、3着以内は菊花賞の優先出走)にシンボ(北海道)が登録しました。2勝クラスで1着、札幌日経オープン(L)4着というここ2戦の芝での成績から、相手や展開次第では上位進出の可能性もありそうです。

●西日本ダービーは佐賀のエアーポケット【各地の主要3歳重賞】

西日本ダービー(9月10日、笠松、1900m)は、中国から4コーナーで先頭に立った5番人気の佐賀からの遠征馬エアーポケット(牡、父ダンカーク)がそのまま押し切りました。園田オータムT(9月3日、園田、1700m)は、逃げたステラモナーク(牝、父エスポワールシチー)が後続を4馬身引き離し、単勝1.8倍の支持に応えて5度目の重賞制覇。不來方賞(9月6日、盛岡、2000m)は、4番手を進んだ2番人気の東北優勝の覇者フレッチャビアンカ(牡、父キンシャサノキセキ)が直線半ばで抜け出して優勝しました。サラブレッド大賞典(9月6日、金沢、2000m)は、5番手から2周目の3コーナー手前で先頭に立った1番人気のカガノホマレ(牡、父トーセンホマレボシ)が8馬身差で圧勝。黒潮菊花賞(9月13日、高知、1900m)は、7番手から追上げた6番人気のフリタイム(牡、父フリオート)がゴール寸前で差し切り勝ちを収めています。

●サクセスエナジーらが参戦、9月22日のオーバルスプリント

テレ玉杯オーバルスプリント(JpnⅢ、9月22日、浦和、1400m)は、逃げ・先行脚質馬が多く、展開が鍵を握りますが、サクセスエナジー、このレース3連覇を目指すノブワイルド(浦和)、サヴィ、トップウイナーの順に有力視されます。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1アイリッシュチャンピオンS〜マジカルが7度目のG1勝ち

アイルランドのレパーズタウン競馬場で9月12日に行われたG1アイリッシュチャンピオンS(3歳上、芝2000m)は逃げたガイヤースをマークするような形で2番手でレースを進めたマジカル(牝5歳、父ガリレオ、A.オプライエン厩舎)がガイヤースを直線で競り落として優勝。このレース連覇を飾るとともに、通算7度目のG1勝ちを果たしています。

●G1ヴェルメイユ賞〜タルナワがG1初制覇

9月13日にフランスのバリロンシャン競馬場で行われたG1ヴェルメイユ賞(3歳上牝、芝2400m)は、中国でレースを進めたタルナワ(牝4歳、父シャマーダル、愛D.ウエルド厩舎)が直線で鋭く伸びて3馬身差で優勝。G1初制覇を果たしました。

●福元大輔騎手が快挙〜カナダのクイーンズプレートに制覇

カナダに渡って活躍中の福元大輔騎手(22歳)が9月12日にカナダのウッドバイン競馬場で行われたクイーンズプレート(カナダ産3歳、オールウェザー2000m)を単勝14.25倍の伏兵マイティハート(牡、父ドラメディ、J.キャロル厩舎)で7馬身半差の逃げ切り勝ち。カナダのダービーともいわれるレースを日本人として史上初めて制しました。